

平成28年度 西日本産業貿易コンベンション協会 事業計画

(平成28年4月1日より平成29年3月31日まで)

【事業運営の理念・方針】

当協会の役割は、西日本屈指のMICE開催拠点＝小倉駅新幹線口 国際コンベンションゾーン＝を一体的に運営し、積極的にMICEを推進することにより、産業振興・国際化の推進・にぎわいづくりで北九州市の新成長戦略などの政策を支援し、にぎわいと活力あふれるまちづくりに貢献していくことである。この役割を果たすため、次の基本理念に基づき、引き続き事業を推進していく。

3つの基本理念

MICE開催の質を高め、産業振興・国際化を推進する。

- ・公益財団法人としての組織力・信用力の活用
- ・MICE研究の深化による専門性とMICE開催誘致の競争力向上
- ・環境変化に対応した主催事業のリニューアル
- ・地域に必要な高品質なコンテンツの提供と情報発信力向上

MICE開催の多様性を高め、にぎわい・活力づくりを展開する。

- ・MICE開催によるビジターズインダストリーの積極的な推進
- ・主催事業のイベント分野への新規参入、イベント営業強化
- ・有効な広報宣伝の実施
- ・他団体、他施設との連携によるエリアマネジメント

施設の付加価値を高め、利用者のニーズに合致した利用環境・サービスを提供する。

- ・小倉駅新幹線口コンベンション施設と西日本総合展示場3施設一体運用
- ・利用者視点からのきめ細かなサービスの提供と向上
- ・ユニバーサルデザイン等による施設・設備機能の改善
- ・ハード、ソフト両面でおもてなしの心の反映

また、平成29年度には、公益社団法人北九州市観光協会との統合を予定していることや、展示場本館開館40周年を迎えることから、それらの準備を進める。

【平成28年度の主な事業目標（指定管理計画（H26～30年度）の28年度目標）】

■ 来場者数（展示場本館・新館、会議場の3施設合計） ⇒ 76万人以上

■ コンベンション誘致件数（九州規模以上） ⇒ 190件以上

※平成27年度の目標値（来場者数75万人以上、コンベンション誘致件数185件以上）を超える水準を目標

【目標達成に向けた、28年度の事業活動】

取組1. 協会主催事業の強化（見本市・展示会事業）

〈180,687千円〉

北九州市の新成長戦略や地方創生総合戦略等、国・県の産業政策の動向を踏まえながら、
 (1) 産業・貿易振興型の既存事業の充実
 (2) 新事業の探索・開発につながるインキュベーション型事業の開発・推進
 (3) にぎわい創出型事業の開発・推進
 を柱に、協会の主催事業の強化に取り組む。

(1) 産業・貿易振興型の既存事業の充実

平成28年度は「エコテクノ2016」など、9事業を開催し、地域の産業・貿易の振興に努める。

《平成28年度開催の事業（新規事業を含む）》

事業名	開催期日	入場目標	出展目標
西日本製造技術イノベーション2016	6月15日	20,000人	60社・団体
第42回ふくおか産業技術振興展	～17日		30社・団体
第38回西日本陶磁器フェスタ	9月15日 ～19日	50,000人	200社
エコテクノ2016 (地球環境ソリューション展)	10月12日 ～14日	30,000人	110社・団体
エコテクノ2016 (エネルギー先端技術展)			110社・団体
エコ・ベンチャー・メッセ2016			25社・団体
中小企業テクノフェア in 九州2016			50社・団体
SAFETEC2016 第2回西日本防災・防犯危機管理展	11月10日 ～11日	10,000人	150社・団体
P.P.C.2016 第18回西日本国際福祉機器展	11月24日 ～26日	30,000人	130社・団体
合計	9事業	140,000人	865社・他

《企画内容の充実》

■ 『西日本陶磁器フェスタ』の企画充実

→全国で最古参の陶磁器展示会として、陶磁器をテーマとする各種企画展の併設や、恒例の「ロールケーキフェスタ」を同時開催。商取引の促進や地域のにぎわいづくりを目指す。

■ 『エコテクノ』の強化

→主催機関で連携を強化し、営業活動に取り組む。水ビジネスやバイオマス等の分野に視点を広げるほか、ビジネスマッチングを充実し、成果の上がる展示会として、魅力向上に努める。

- 『SAFETEC 2016 第2回西日本防災・防犯・危機管理展』の内容充実
→ 27年度に日刊工業新聞と共同で九州初開催した同展示会について、出展営業の強化、広報戦略や特別企画の見直し等で内容の充実、定着を図る。

《国際ビジネスの推進》

- 韓国釜山広域市BEXCOとの連携
→ 27年度に締結したMOUに基づき、相互出展の拡大と海外展示会への出展、展示会の開催調査、新規事業の開発に取り組む。



MOU調印式

(2) インキュベーション型事業の開発・推進

新たな産業・ビジネスモデルの創造を支援するため、北九州市と協力して新規展示会（6次産業分野・デジタルものづくり関連など）の開発を行う。またIoTやロボット関連、医工連携など様々なテーマのフェアインフェアやセミナーなどを行い、新規展示会の開催ニーズを探索する。

《新規事業の展望》

- 『西日本インポートフェア&食メッセ』後継事業の企画・開発
→ 平成28年度は、後継事業となる新規企画について、事業開発のための調査研究、関係機関へのヒアリング等を行い、29年度の開催を目指す。
- 『ロボット総合産業フェア（仮称）』を企画展として開催
→ 西日本製造技術イノベーション2016にて企画コーナーを設ける。
- 『地域ニーズを捉えた新規企画』の開催
→ 当協会の主催事業のノウハウを提供することで、地域のニーズを捉えた主催形態にこだわらない展示会・イベントを開催する。

(3) にぎわい創出型事業の開発・推進

夏休み・冬休みを中心に、市外・県外からの集客も見込める、メディア等とタイアップしたファミリー・イベントを開催。また、北九州スタジアムと連携したスポーツ大会の検討などに着手する。

《夏休み・冬休みのにぎわいづくり事業》

平成27年度は、
夏休み『トミカ博』『巨大いきもの大冒険』
冬休み『チャギントンランド』『日本全国！鉄道ひろば』を開催。



トミカ博

夏休み（約11万人）



巨大いきもの大冒険

冬休み（約6万人）



チャギントンランド



日本全国！鉄道ひろば

取組2. コンベンション誘致の強化（会議・大会等）

〈80,456千円〉

他都市との誘致競争が激化する中、国際・全国規模の学会・大会などを数多く誘致し、平成28年度の目標（年間190件以上）を達成していくため、
 (1) グローバルMICE強化都市選定による国際会議誘致の強化
 (2) 誘致マーケティングについての取組み
 (3) 誘致セールスについての取組み
 (4) 開催支援への取組み
 などを柱に、積極的に、コンベンション誘致に取り組む。

(1) グローバルMICE強化都市選定による国際会議誘致の強化

グローバルMICE強化都市の選定都市に提供される研修プログラムを強力な推進剤として国際会議誘致を強化する。ICCAへの加入、関係機関との協議会の設立、海外見本市・商談会への参加、ホームページの充実等を図る。

(2) 誘致マーケティングについての取組み

4大学（九州工業大学、九州歯科大学、北九州市立大学、産業医科大学）、北九州市、北九州商工会議所との連携協定を活用した誘致活動を行うほか、JNTOからの情報収集、IMEへの参加を行うなどでマーケティング活動に取り組む。

(3) 誘致セールスについての取組み

国際ネットワークのさらなる構築、首都圏への積極的な営業、西日本総合展示場・北九州国際会議場の効率的な利用の促進、主催事業にマッチした誘致営業、MICE開催助成金を活用した営業等に取り組む。

(4) 開催支援への取組み

会議支援制度の拡充、新たなユニークメニューの開発、産業観光などのエクスカージョンの活用等を行い、北九州市のPRを図る。

また、増加する国際会議に対応するため他ボランティア団体との連携、コンベンションボランティア制度などきめ細かな誘致支援活動を行う。

取組3. 貸館利用者の誘致・営業の強化

〈14,050千円〉

貸館利用者を拡大し、施設稼働率の向上、利用者の増加を図っていくため、
(1) リピーターの定着化及び復活
(2) 新規利用者の開拓
(3) 「にぎわいイベント」への取り組み
(4) 地元メディアとのネットワークの構築
(5) 広域行政連携の推進
を柱に、誘致営業に取り組む。

(1) リピーターの定着化及び復活

過去の展示場の顧客データを分析し、会場利用がなくなった顧客に対して営業訪問を行い、復活開催してもらえるように集客支援等を提案する。

特にリピーター率が高い「自動車ディーラー」や「家電メーカー」、「ハウスメーカー」等に対し引き続き営業フォローに努めていく。

(2) 新規利用者の開拓

従来の展示会・見本市の誘致に加え、展示場・会議場での新たな利用形態を模索し、新規分野（コンサートやゲーム大会、検定試験会場、試験会場など）を中心に営業活動を展開する。



(3) 「にぎわいイベント」への取り組み

主に夏休みや冬休みの対策として、ファミリー向けの「にぎわいイベント」の誘致に取り組む。平成27年度には、夏休みに開催した「トミカ博 in KITAKYUSHU」については、2年ぶり2回目の開催であったが、初回開催を上回る動員数となった。継続的に「にぎわいイベント」を開催していくために、会場利用等の条件の整備、コンテンツの選定を十分に見極め、ファミリーに喜んで来場してもらえる「にぎわいイベント」を構築していく。

(4) 地元メディアとのネットワークの構築

「にぎわいイベント」を成功に導くためには、地元メディア（新聞、テレビ、ラジオ）との連携が必要であり、そのためのネットワークを強化していく。

さらに全国のコンベンション施設や産業振興団体等と利用情報の交換や共有を図ることで、共催・協力に向けた体制を構築していく。

(5) 広域行政連携の推進

「にぎわいイベント」において広域からの集客を図るため、北九州市の広域行政連携を活用する。

取組4. 広報・宣伝、地域連携

〈9,408千円〉

(1) 広報・宣伝

協会ホームページに加え、情報誌「催事案内」の発行、JR小倉駅のマルチビジョンによるPR、新聞広告、JR主要駅やモノレール各駅へのポスター掲示などによる広報活動を実施する。

(2) 地域連携（小倉駅新幹線口振興連絡会などとの連携）

小倉駅新幹線口の「にぎわいづくりと魅力アップ」に貢献していくため、「あるあるCity」「北九州スタジアム」などと連携したイベントの開催の検討、小倉駅新幹線口地区振興連絡会の活動に積極的に取り組む。

取組5. お客様満足度の向上（管理・運営）

〈669,774千円〉

(1) サービスの向上

利用者アンケートや利用実態等を参考に貸出備品等の充実を図る。インターネット接続環境に関しては、Wi-Fiフリースポットの再整備を含め、より便利な環境づくりに努める。また、北九州スタジアムとの連携を図る上で、当施設でできるハード・ソフト面でのサービスメニュー等、来場者への満足度向上に繋がるような利用方法を検討する。

(2) 職員の資質・能力の向上

多様化するニーズに適応できる人材育成促進のため、企画力やコミュニケーション能力を高めるための研修等を積極的に導入する。引き続き個人情報保護や情報公開などコンプライアンスの遵守等も意識しながら、職員資質、能力開発を図ることにより、全般的なサービスの質の向上を目指す。

(3) 施設・設備の改修等

展示場・会議場を、いつも安全・快適に利用していただけるよう、老朽化している施設・設備・備品などの予防保守や改修・改善に適宜取り組む。

(4) 展示場本館の対応等

本館については耐震改修工事の工期の設定を定例利用者等との利用日程の調整を慎重に行いながら準備を進めていく。また、北九州スタジアムの稼働にあわせて、小倉駅新幹線口地区のMICE施設の1つとして、外観上・機能上の整備を行う。